

理工学部

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

理工学部では、大幅なカリキュラム改定が2019年度に行われた。今後適切にカリキュラムが運用されているかどうかの確認を、学生と教員それぞれの視点から、各学科・学部にて行っていただきたい。教育課程については、各学科、各コースそれぞれの課程に相応しい教育が行われている。中でも、新入生全員を対象としたプレースメントテスト結果に対応したリメディアル科目の設置などは、評価できる。また、効果的に教育を行う措置、授業形態として、下級生に対する上級生によるチューター制度の導入や、スキル向上のための少人数クラス必修科目の設置、PBLが必修科目として設置されているなど、学部独自の履修指導や学生指導が実施されていることも評価できる。成績評価、単位認定及び学位授与については、適切になされている。特に卒業研究については、発表会を実施し、卒業論文提出を義務化して、複数の教員により単位認定の判断が行われていることは評価できる。学習成果の把握と評価については、成績分布、進級などの状況が学部、学科にて把握されており、学習成果を測定する指標として学会発表等を取り入れているのは、分野の特性に応じた取り組みであろう。学習成果の可視化については、一層の取り組みを期待したい。学生ポートフォリオの活用等、今後の取り組みに期待したい。教員・教員組織については、FD委員会が新設され活動を開始したことや、研究活動や社会貢献等の活動が活発に行われていることは評価できる。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

上記総評の中で、「今後適切にカリキュラムが運用されているかどうかの確認を、学生と教員それぞれの視点から、各学科・学部にて行っていただきたい。」との指摘があった。これに対して次の取り組みを行っていることを挙げておきたい。

2019年度からスタートした新カリキュラムは同年度の新入生から適用となっており、初年度が経過したところである。取り組みとして、2019年度入学生の個人情報部分を除いた同年度末の累積GPA値、ならびに(1年次の)未修得必修科目数データを、学部執行部会議メンバー教員が閲覧・分析・可視化等できるよう、パスワードを掛けた上でデスクネットにて参照可能として2018年度分と共にデータの蓄積を開始しており、各学科での指導やカリキュラムの適切性について適時検討することができる環境を構築した。

教育課程のうち、重視するところの一つは新入生の学力のばらつきを早期に平坦化することであり、特別入試による入学者(各種推薦入学者)については、入学前のweb学習プログラムを提供して準備させた上で、一般入試での入学者と共に、英語はTOEICテスト、理系科目についてはプレースメントテストを受験させることで、英語の少人数クラス分けに際して学力レベルに合った編成ができ、補完教育科目(リメディアル科目と称することがある)の入門数学、入門物理学の受講推奨を、きめ細かく行っている。ただし、2020年度は新型コロナ禍の影響で一部実施できなかったが、別の工夫をしてできるだけの対応を行ったところである。

また、同総評の中での指摘、「学習成果の可視化については、一層の取り組みを期待したい。」等に対して、各学年の留級率を年度ごとにデータ化・蓄積し、上記と同様デスクネット上で学部執行部会議メンバー教員が参照できるよう同様に環境を整備し運用を開始した。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

理工学部についての2019年度大学評価委員会の評価結果では、2019年度の大規模なカリキュラム改定に対して、「今後適切にカリキュラムが運用されているかどうかの確認を、学生と教員それぞれの視点から、各学科・学部にて行っていただきたい。」との指摘があった。これに対して理工学部では、累積GPA値、ならびに(1年次の)未修得必修科目数データの蓄積が開始されており、各学科での指導やカリキュラムの適切性について適時検討可能な環境を構築した点は高く評価できる。また、新入生の学力のばらつきを早期に平坦化するためにプレースメントテスト結果に基づく学力レベルに合った英語少人数クラス分けや、数学、物理学の補完教育科目の受講推奨等、きめ細かな方策がとられている点が評価できる。2020年度は新型コロナ禍の影響で対応に苦慮する部分があると思われるが、学習成果の可視化のための環境整備の努力を引き続き期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>・教育課程の編成・実施方針に基づき、体系化され配置された科目に対し、学部として適切な教員を選し、各課程に相応しい教育内容を提供している。</p> <p>・新カリキュラムは2019年度から運用を開始しており、2020年度は2年次生までが新カリキュラムの対象となる。少なくとも今年度前半は授業期間中も新型コロナウイルス禍対応が優先事項となる可能性が高く、平常時と同一環境・状況ではないが、上記新カリキュラムが適切に運用されていることを、対象年次学生の成績指標などを用いてウォッチしたい。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版） ・理工学部カリキュラム等紹介 https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/ ・カリキュラムマップ・ツリー（理工学部のHP） 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>教育課程の編成・実施方針に基づき、機械、電気電子、応用情報、経営システムの各学科の専門教育では、コース制を設け教育課程を体系化している。さらに、コースや境界領域で選択科目の履修モデルを設け体系的な学びを可能としている。一部の学科では、コースごとにカリキュラムツリーを作成している。創生科学科ではコース制は設けていないが、4つの学習フィールドを設定し、理工学部教育課程編成・実施方針に基づき有機的なつながりを理解する能力、多様な領域へ適用できる能力の育成等、時代の要請に合った教育課程を体系的に編成している。</p> <p>学科ごとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し順次性・体系性を確認するとともに、可視化を行っている。</p> <p>2019年度末には新型コロナウイルス禍対応も兼ね、学生がすべてウェブ上で情報を得ることができるよう、理念・目的、履修の手引き、時間割、カリキュラムマップ・ツリー、ウェブシラバスへのリンクなどを理工学部のHPに掲載した。これは社会に対する情報公開の一環に位置づけることもできる。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版） ・理工学部カリキュラム等のweb紹介 https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/ ・理工学部の教育目標・4つのポリシーなど https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/ 	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>建学の理念を踏まえ、豊かな人間性に支えられた自由な思考能力を育成するための幅広いカリキュラムを用意し、さらに学びの多様化に対応すべく他学科科目の履修も可能としている。また、教養科目全体を語学系、人文・社会・自然科学系、保健体育系、数学・理科系、リテラシー系に大別し体系化している。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版） ・理工学部の教育課程の特色のweb紹介 https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/tokushoku/ 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

初年次教育は教養科目の中で実施し、特に、付属校と特色ある高大連携プログラムを検討・実施するとともに、付属校推薦入試、指定校推薦入試、およびスポーツ推薦入試の進学予定者に入学前の web 学習プログラム（以下、入学前教育と称す）を設け、受講を課している。これに加えて、理工学部新入生全員に対し、数学・理科におけるプレースメントテストおよび TOEIC テストを実施し、それらの結果を英語については能力別クラス分け、およびリメディアル科目（入門数学、入門物理学）の履修・受講推奨を例年行ってきたが、2020 年度入学生については、新型コロナウイルス禍のために、TOEIC は web 受験させることに切り替え、結果として英語のクラス分けは実施できたが、集合開催しか選べないプレースメントテストは実施できなかった。しかしながら初年次教育の重要な一面、学力の差異を次年次に持ち越させない要素を重視し、前例は無かったが、上記入学前教育の結果も踏まえて、数学・物理学の学力が不足がちと見られる新入生に対してリメディアル科目の履修・受講推奨を行い、学部として最大限配慮した。

【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版）
- ・入学前教育の実施報告（2020 年 6 月中旬の入手を予定）

⑤ 学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

- ・2010 年度から国際化に対応するための SA (Study Abroad) プログラムを継続的に実施している (2019 年度は実施、2020 年度は実施取りやめ)。SA については英語能力向上も企図した奨学金制度がある。この他、国際化を意識した英語能力向上のための少人数教育を必修科目として実施している。
- ・小金井キャンパスにおいてグローバルオープン科目を開設している。
- ・留学生については、留学生ガイダンスや留学生歓迎会を行っている (2019 年度)。2020 年度も予定していたが、新型コロナウイルス禍によって渡航自体も困難となり、事態が改善した段階で実施することとするが、引き続き彼らが大学に早期になじむべくサポートを行う。

【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版）

⑥ 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

キャリア教育では、3、4 年次に対してインターンシップを積極的に実施している。また、一部の PBL において、他大学や企業と連携して実施している。多くのゼミ活動においては、企業や大学との共同研究の参加、学会等で発表を通じて、実社会での活動を行っている。さらに、一部のゼミにおいては、チームで研究を行うことにより、コミュニケーション能力を養っている。

【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版）
- ・理系学部研究室ガイド

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

① 学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・学科別ガイダンスで履修の手引きを配布している (2020 年度はウェブ版も追加公開した)。
- ・学科主任や実験・実習、演習担当教員による個別試問を含めた十分な履修指導を行っている。
- ・各学科においてオフィス・アワーを周知し、学生の履修相談に対応している。
- ・低学年 (1、2 年生) に対しては、クラス担任による個別の履修指導を行っている。
- ・下級生に対する上級生の成績優秀者によるラーニングサポーター制度 (旧称：チューター制度) を設けている。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 一部学科では、1年生に対して少人数グループによるプレゼミ制度を設けてきめ細かい指導を行っている。 学科ごとにチューター制度の利用者数の集計を行っている（2020年度は実施未定）。 3年次、4年次では、全学生のゼミ配属が行われ、少人数かつ緻密な指導を行っている。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍対応として、新入生の不安解消・安否確認・履修登録ケアを目的としたメールベースの指導を行っている（2020年度）。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版） 理工学部教授会資料 学部長室から学科主任への新入生安否確認依頼メール 学科主任から新入生へのケアメール 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要な科目については講義に加え演習を設け習熟度を上げている。 科目によってはスキル向上のため、少人数クラスとし必修科目としている。 1年次から科学実験、物理学実験、化学実験、生物学実験、2年生以上においては少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBL等を充実させ専門分野のセンスを養っている。 オフィス・アワーなどの種々の機会も併用し、個別の学習指導も行っている。 専門科目の実験については、一部の学科で学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個人ごとに理解度をチェックし密な指導を行っている。 3年次、4年次では、全学生をゼミに配属し、少人数かつ密な指導を行っている。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版） ガイダンス資料 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修制限を実施している（原則として春・秋学期の各30単位かつ通年49単位）。ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2年次以降はGPAが3.0以上の学生については通年49単位の履修上限を60単位に変更している。 実験については、毎週レポートの提出を課し、予習・復習時間が平均化するようにしている（2019年度）。2020年度春学期については、毎週の提出は緩和している（実験科目のオンライン化による）。 シラバスに予習復習時間を記述し、学生に自覚を促している。 ゼミ活動においては、学生に実験や勉強のための滞在スペースを与え、学校にて勉強を行う環境を整えている（2019年度）。2020年度春学期については、新型コロナウイルス禍対応のため、この限りではないが予習復習時間は例年に比べ自宅等で取り易くなっている状況にあると推察できる。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版） ガイダンス資料 ウェブシラバス 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生自身で問題を発見し、その解決を考える力をつけるため、PBLを必修として、「主体的な学び」を視野に入れた授業形態を導入している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・実社会での体験を通じて学ぶインターンシップ科目を設定し、研究・技術者としてのリーダーシップ能力等の育成とその充実も目指している。
- ・専門科目の実験については、一部の学科において学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度をチェックし緻密な指導を行っている。
- ・3年次、4年次では、全学生がゼミに配属され、少人数かつ緻密な指導を行っている。
- ・ゼミ活動においては、企業との共同研究や学会発表を行うことにより、身に着けた知識を実践的に役立てている。
- ・一部の学科を除き全教員によるオムニバス形式による学科ごとの専門分野の全体を理解するための必修科目を用意している。
- ・一部の学科では複数のゲストスピーカーによる実践的知識と経験を授ける授業を行っている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版）

⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。

S A B

※どのような配慮が行われているかを記入。

- ・それぞれの授業形態に応じて、講義、語学、演習・実験等において、1授業あたりの学生数が配慮されている。プログラミングなどの必修科目については過剰な人数にならないように2クラスとしている。特に会話形式の必修語学授業、実験装置の制約に係る演習・実験科目等で1クラスの学生数の上限を概ね設けている。
- ・卒業研究等のゼミ科目においては10人前後となるように考慮している。
- ・留級者、休学者及び退学者の情報を学科または学部執行部の会議で把握している。成績不振の学生に個別で学科主任または担当教員から対応を行っている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・理工学部生のための履修の手引き冊子体・ウェブ版

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S A B

【確認体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・成績の評価方法、評価基準についてはWebシラバスに明記し厳格な運用を行っている。
- ・成績評価に関してはGP及びGPA、場合によりGPTを算出している。
- ・成績評価について全体のフィードバックを行い評価基準の共通認識を高めている。
- ・成績公表後一定期間、学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。
- ・授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによってある程度の状況把握を行っている。
- ・卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。また、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付けている。
- ・理工学部学生モニターを実施し、授業がシラバス通りに行われているかどうか確認している。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・ウェブシラバス

②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。

S A B

※取り組み概要を記入。

- ・定期試験、レポート、平常点などによって、総合的かつ厳格に成績評価を行っている。また、成績発表後の一定期間中に、学生による成績評価の調査申請制度を設定・実施している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・専門科目の実験については、一部の学科で学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度を把握している。</p> <p>・3年次、4年次では、全学生がゼミに配属され、担当教員が日常的に個別に指導等を行い正確な成績を評価している。</p> <p>・成績公開後一定期間学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。</p> <p>・卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。</p> <p>・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部教授会資料</p> <p>・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版）</p>	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>・各学科に就職担当を置いている。</p> <p>・各学科とキャリアセンターとが連携しながら把握している。</p> <p>・就職・進学情報は大学院専攻主任会議で共有している。</p> <p>・各学科でも企業訪問を受け付け、状況の把握に努めるとともに、学生に対する紹介などを行っている。</p> <p>・3,4年次での全員学生を対象として少人数ゼミによる教育の中で、就職活動についても指導、情報交換を行っている。場合によっては企業の紹介等も行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部教授会資料</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>・成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>・学生の学習成果を測定するため GPA の学科別分布を取り分析している。</p> <p>・進級、留級状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握し、学部執行部会議メンバーが自学科・学部全体のデータを閲覧・分析・可視化することができるようにデスクトップ上に配置した。</p> <p>・英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている(2019年度)。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。なお2020年度4月の TOEIC テストは新型コロナウイルス禍の影響もあり、集合開催はできなかったが、急遽ウェブ試験に切り替えることができ、実施できた(1.1④参照)。</p> <p>・新入生に対しては、プレースメントテストや TOEIC の結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている(2019年度)。2020年度4月のプレースメントテストは新型コロナウイルス禍のため実施できなかったが、リメディアル教育のための受講候補者選定については、これまでの経験と入学前教育の結果を踏まえて実施した(1.1④参照)。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部教授会資料、執行部会議資料</p> <p>・FD委員会答申</p>	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>以下について、指標の設定は一部を除いて基本的に得点であるが、特記事項等で把握することもある。</p> <p>・入学段階での学生の基礎学力を測るための指標として、各種入学試験における成績、調査書等の記載内容、面接結果等から、理系科目および英語力について十分な基礎的素養を持つことの測定をしている。また特に英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、成績により個別にリメディアル科目の受講を促している（2019年度）。 ・一部の学科の専門科目の実験については、個人個人に試問を行い一人ひとりの理解状況を把握している。 ・試験の成績のみでなく、研究成果の学会発表等を学習成果の一つの指標としている（PBL）。 ・卒業研究について、すべての学科で発表会（審査会）を行っているが、一部の学科では学科教員全員参加の評価の場で、学習成果に不足が見られる学生に対して再発表を課して、充実を図っている。 ・3,4年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果を正確に把握している。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス禍により、新入生に対する集合受験での TOEIC は実施できなかったが、急遽ウェブを通じた TOEIC 試験を導入することで対応することができた。 ・リメディアル教育科目（入門数学、入門物理学）への新入生の受講推奨活動の基礎資料となる、プレースメントとテストも実施できなかったが、代用として入学時に得られる関連成績資料、特別入試経由の学生が受講した入学前教育の受講記録を用いて、受講推奨を行うことができた。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・KLAC 英語部会教員とのメール 	
<p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用を行っている。 ・学生の学習成果を測定するため GPA や分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。 ・進級、留級状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握している。 ・英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。 ・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている。 ・3,4年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果（学会発表等）を正確に把握している。 ・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料、学科教室会議資料 	
<p>④学習成果を可視化していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績に関する基本統計データをグラフや表などの形で可視化している。 ・各種分析法を適切に施して得られたデータの可視化については、各委員会等で継続的に検討し教授会等で情報共有を行っている。 ・付属校推薦入試と指定校推薦入試の進学予定者については入学前にオンライン学習を課しており、進捗状況や得点等を可視化し把握している。 ・プレースメントテストについては点数データを把握し、本人へのフィードバックおよびリメディアル教育に活用している。 ・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。 	
<p>【2019年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレースメントテスト結果の集計（2019年度） ・GPAの学科別分布の解析 ・必修科目の不合格者統計 ・TOEICスコアの集計解析 ・教室会議、執行部会議、教授会にフィードバックする体制の構築および教室会議での学科毎の測定と対策の検討 <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き（冊子体・ウェブ版） ・デスクトップ上の個人情報削除後のGPAデータ、留級率データ（特定の教員のみ閲覧可） 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業改善アンケートを各教員のシラバスに反映させ、フィードバックしている。 ・授業改善アンケートは記名式にして回答の信憑性を向上させるようにしている（ただし、教員には個人名は公表されない） <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスチェック資料 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・学習成果についての必要な事項は的確に実施されており、PDCAサイクルが回っている。 ・学部内委員会である、FD委員会、カリキュラム委員会、研究推進委員会にて現状把握と分析、さらに対策案の検討を行っている。 ・旧カリキュラム・2019年度スタートの新カリキュラムでの留級率の推移の計測を継続している。 ・入学経路別の新生の初年度末累積GPAのデータ・各学年の留級率データを蓄積し、権限のある教員に対して閲覧環境を提供している。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし	

【この基準の大学評価】

理工学部においては、2019年度からの大幅なカリキュラム改定により、適切な教育課程・内容が提供されているが、とりわけ以下に示す様に2020年は新型コロナ禍により生じた不測の事態に、迅速にインターネット環境を利用して学生目線での対応がおこなわれたことが高く評価される。

教育課程の編成・実施方針に基づく授業科目開設と教育課程の体系的編成について、2019年度からの大幅なカリキュラム改定により、コース制を設けた教育課程の体系化、選択科目の履修モデルを設ける等の対応により、適切な教育内容が提供されている。とりわけ、新型コロナ禍に対応し、学生が理工学部に関するすべての情報をウェブ上で得られるよう学部HPに掲載したことは高く評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学生の学習活性化の措置について、学生への履修指導は適切におこなわれており、とりわけ少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBLを充実させ、専門分野学習を定着させている点で高く評価できる。また新型コロナ禍に対応し、新入生に対してメールベースで不安解消、安否確認、履修登録のケアをおこなっていることは高く評価できる。

成績評価や単位認定の適切な実施について、学生の成績評価は適切におこなわれており、とりわけ成績評価に関してはGPおよびGPA、場合によりGPTを算出してきめ細かくおこなわれていることは高く評価できる。

学習成果の把握や評価について、学生に複数回のTOEICテストを課していること、ブレースメントテスト結果をフィードバックしてリメディアル科目受講を推奨していること、卒業研究において成果に不足が見られる場合は再発表を課す等、学生の学習成果の把握、評価は適切におこなわれている。とりわけ、新型コロナ禍により新入生に対する通常のTOEIC受験ができなかったことに対し、急遽、ウェブを通じたTOEIC試験を導入して対応したことは高く評価できる。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S **A** B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・FD活動については執行部が主導のもと各学科が実行主体となり推進している。

【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・全学科で授業相互参観を行っている。2019年度秋学期は、学部全体で専任教員の担当する全科目を公開し兼任講師の科目についても実施した。今年度は、複数教員が協力して行っている科目についても、授業参観の要素があるものについて把握した。今年度は48科目を実施した。

・研究活動状況を研究集報として公表し、教員の当該年度の研究業績や学会活動を掲載している。

・学生モニター制度を活用し、個別教員に対する意見があった場合、執行部から当該教員に改善点を連絡している。

・FD推進センターの各種イベントを所属教員に周知している。

・理工学部FD委員会の検討結果は教授会で報告し議論を行い意識の共有を図っている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

・相互の研究活動を把握し、共同研究の目を育てるなどを目的として、2019年度から小金井3学部で開催を開始した小金井研究交流セミナーに参加し発表やディスカッションを行った。

・お互いの研究成果を客観的に把握できるようにするために、研究集報を発行している。

・学会等での受賞、表彰について、教授会にて紹介している。

・地域向けの公開イベントを開催している。また、スポーツ交流イベントに参加している。

・理系同窓会と連携し、企業、教員、学生との交流イベントを開催し、連携を促進した（小金井祭での研究室紹介）。

・理系同窓会連携委員会を新たに設置し、卒業生が就職した企業との連携の活性化を図った。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・法政科学技術フォーラムへの参加（生命科学部・情報科学部との共同イベント）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

・法政科学技術フォーラム案内 (<https://www.hosei.ac.jp/riko/NEWS/topics/20190612/>)

・小金井祭での研究室紹介案内 (<https://koganeisai.com/event/laboratory/>)

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業相互参観は確実に実施されている。 ・理工学部FD委員会において状況の分析や対策を検討する体制が確立している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・理系同窓会との連携強化を図っている。 ・小金井3学部間で教員間の共同研究等の芽吹きを意図したイベント等を共同開催している。 	
---	--

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・教員による授業相互参観は学科により実施の程度にばらつきがあるので、より適正に実施する(ただし新型コロナウイルス禍の終息状況を勘案しなければならない)。	

【この基準の大学評価】

<p>理工学部では、これまで学科間で実施程度にばらつきがあった教員による授業参観について、2019年度は全学科で、かつ兼任講師の科目についても実施されるようになり、評価できる。2020年度は複数教員が協力しておこなっている科目についての実施が予定されており、授業参観制度を活用したFD活動の推進が期待される。また、理工学部FD委員会において状況の分析や対策を検討する体制が確立していることは評価できる。</p> <p>社会貢献等の諸活動の活性化への取り組みについては、生命科学部、情報科学部と共同で小金井研究交流セミナーの開催(年2回)、法政科学技術フォーラムへの参加(9月)、小金井祭における研究室紹介(11月)など、研究活動の学部外への発信が活性化されており、高く評価できる。</p>
--

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証	
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築しPDCAサイクルを確立する。	
	年度目標	・FD委員会の運営を円滑に行う。	
	達成指標	・各種データを収集・整理し学部で共有することによる可用性。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	学部運営、学科運営を効率化、可視化するために、各種の情報を集約して閲覧できるようにする仕組みを構築した。
		改善策	今後は、可視化するデータの充実を図る。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		どの様なデータを用意すれば評価に資するのか検討する必要がある。	
改善のための提言	FD委員会の役務として、データの在り方を検討する。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・カリキュラムポリシーに基づき最適なカリキュラムとする。 ・理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。	
	年度目標	カリキュラム改定の初年度にあたるため、まずは、適正に運用が行われることを確認する。	
	達成指標	・初年度状況をモニタリングし状況の把握をしていること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	・1年生の留年率、成績等をチェックし、初年度の新カリキュラムの状況を各学科にて把握、分析した。 ・アドミッションポリシーについて新カリキュラムに対応し見直しを行いよりコンセプトを明確にした。 ・ディプロマポリシーについて新カリキュラムに対応し各学科のポリシーも明確にした。
		改善策	カリキュラムポリシーについても、各学科のポリシーを明確にしていく必要がある。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		過去3年間の取り組みで、3つのポリシーに関しては、十分な整備が行われてきた。	
改善のための	各学科において、カリキュラムポリシーと授業体系の整合性の検証機会を設ける。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	の提言	
		の提言	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・留年・休学・退学者数を適正にする。 ・教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。 	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改定の初年度となるため、留年・休学・退学者を継続的に測定し、新カリキュラムの効果を分析する。 ・相互参観について、兼任講師担当科目数を増やす。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・留年・休学・退学者の計測を行い可視化、共有していること。 ・兼任講師担当科目の参観科目数。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、過去の留年等の状況を整理し分析するとともに、今年度から新カリキュラムとなるため、今年度は一年生の状況の把握を各学科で行った。 ・兼任講師の科目数については、約18%増加させることができた。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		概ね前向きに評価できる状況が整備されている。	
改善のための提言	授業参観や常勤教員と兼任講師との交流の場を設け、授業内容と学科のカリキュラムポリシーの整合性を検証する。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムを実現する。	
	年度目標	新カリキュラムとディプロマポリシーの対応を確認し、カリキュラムマップを作製する。	
	達成指標	・新カリキュラムのカリキュラムマップ、ツリーを、Webにて公開していること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムのカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し、Webにて公開した。 ・アセスメントポリシーを新たに作成した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		概ね前向きに評価できる状況が整備されている。学生の授業評価を実施し、シラバスへの反映も実施している。	
改善のための提言	各教員が、授業の現場で積極的に学生からのフィードバックを受け取るよう心がける。		
No	評価基準	学生の受け入れ	
5	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路を最適化し、より優秀な学生を受け入れる。	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入学経路については継続的に検討していく。 ・指定校推薦について、適正な高校を指定するために、指定高の選定を実施する。 	
	達成指標	・指定校について見直し効果的な高校について選定していること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	指定校について、今年度新たに追加変更した高校を重点的に分析を行い、来年度の指定校の対策を検討した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		指定校の見直しは、重要な課題であり、具体的に作業が進んでいる。入試に関して、それ以外の項目である留学生受け入れ等議論が必要である。	
改善のための提言	入試のあり方全体について、各学科で検討の機会を設ける。指定校に関しては、地方と首都圏の要望の差異を意識して進める。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	教員・教員組織	
6	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 年齢構成を適正化する。 教育研究支援体制を確立する。 	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 退職者の後任人事に際して適正な採用を行い、年齢構成の改善を図る。 テニユアトラック制度について、理工学部として円滑な導入を図る。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 新教員採用時に年齢に考慮し、高齢者に偏らない分布としていくこと。 テニユアトラック制度の規定類を制定すること。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用については、各学科において年齢構成等を考慮して最適な人事を行った。 テニユアトラック制度について、理工学部としての内規、ガイドラインを作成し、実運用体制を整えた。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		概ね前向きに評価できる状況が整備されている。	
改善のための提言	学内における定期的な教員の研究成果発表会の開催等通じて一層の相互理解を目指す。		
No	評価基準	学生支援	
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対するサポート体制を充実させる。 	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラム導入の初年度であり、進級基準が変更になっている学科も多く、特に留年数について計測・分析を続ける。 ラーニングサポータ制度の効果的な運用を図る。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 留年・休学・退学者の計測を行い可視化、共有していること。 ラーニングサポータ制度運用について各学科の現状を把握するとともに、学生に対する効果を把握していること。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<ul style="list-style-type: none"> 各学科にて、1年生の留年率、成績等をチェックし、初年度の新カリキュラムの状況にて把握、分析した。 ラーニングサポータ制度については実施状況を把握し、各学科にて効果的な運用を図った。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		概ね前向きに評価できる状況が整備されている。成績不振学生の面談を実施してきた。	
改善のための提言	特に個別面談が必要な学生に対して、面談の機会を増やす。		
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
8	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 法政大学科学技術フォーラムへの出展に積極的に参加する。 理系同窓会と連携イベントを開催し、企業と教員および学生との連携を図る。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 法政大学科学技術フォーラムは今年度初実施となるため、その状況を把握し、出展数等を適正にしていること。 理系同窓会との連携イベントの参加者数。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		<ul style="list-style-type: none"> 理系同窓会、工体連との連携イベント（ホームカミングデー）は約350人参加し盛況に開催することができた。 科学技術フォーラムについては、理工学部から11件出展し、成功裏に開催することができた。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究成果以外の点でも、積極的な連携活動を進めたい。
	改善のための提言	教育内容についても優れた事案は、その概要や学生の評判などを公開するような方策を検討する。

【重点目標】

2019 年度新カリキュラムが適正に運用が行われていること。状況把握のために各種データを収集・整理し学部で共有することによる可用性の向上を図る。

【年度目標達成状況総括】

・新カリキュラムについては、各学科で実施状況を確認、チェックを行った。また、新カリキュラムに対応したマップ・ツリーを作成した。さらに新カリキュラム発足に合わせ、アセスメントポリシーを新設するとともに、ディプロマポリシーとアドミッションポリシーを充実させた。新カリキュラム一年目であるが、適正に運用することができた。

・各種データの可視化については、最初の試みとして、各種データを集約し、教授会メンバーがいつでも閲覧、利用できるようにする仕組みの構築ができた。今後は、データの充実を図っていく。

【2019 年度目標の達成状況に関する大学評価】

理工学部では、2019 年度目標が概ね達成されていることは評価できる。特に、カリキュラムポリシーの整備、留級・休学・退学者数の把握、指定校の見直し、成績不振学生に対する面談等の対応がなされたことが評価できる。

一方、内部質保証のための運営体制として、円滑な FD 委員会の運営に関して、可視化するデータの充実が改善策として挙げられているが、どのデータを評価対象とするのか、具体的な検討が望まれる。

また、年度目標達成状況の総括において、概ね年度目標が達成されたことが伺えるが、具体的にどの取り組みに対する目標が達成されたのか記載が無く、わかりづらいので、今後はより具体的な記載が望まれる。

IV 2020 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築し PDCA サイクルを確立する。
	年度目標	・FD 委員会を運営し、昨年度から取り組んでいる FD 関連データの充実を図る。特にデータの取捨選択を適切に行う。
	達成指標	・集約した FD 関連データに対して、FD 委員会等において判定されるそれらの適切性。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	・カリキュラムポリシーに基づき最適なカリキュラムとする。 ・理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。
	年度目標	・学部カリキュラムポリシーに対する 2019 年度開始の新カリキュラムの整合性を点検する。
	達成指標	・点検結果に基づいて、カリキュラム・授業体系と学部カリキュラムポリシーとの整合性が確認できること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	・留年・休学・退学者数を適正にする。 ・教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。
	年度目標	・新カリキュラムにおける教育課程と学習成果の関係性を、留級・休学・退学者数等に着目し測定する。 【新型コロナウイルス禍の収束状況等にもよるが、状況が許せば以下も目標とする。】 ・相互参観について、兼任講師担当科目での実施程度を把握する。
	達成指標	・それぞれの測定値を可視化し、学部内等で共有していること。 ・兼任講師担当科目での授業相互参観の全体に対する割合等。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムを実現する。
	年度目標	・4 年間のカリキュラムの学習成果として学位が授与されることに鑑み、新カリキュラム 2 年目である本年度は特に 2 年次生までの学習成果について把握する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

	達成指標	・必修科目の単位修得率等を計測し、学部内等で共有すること。
No	評価基準	学生の受け入れ
5	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路を最適化し、より優秀な学生を受け入れる。
	年度目標	・入学経路（入試方法）については継続的に検討する。 ・指定校推薦について、適正な高校の選定を行う。
	達成指標	・検討の中間報告、結果等が教授会等で共有されること。 ・新型コロナウイルス禍が入試に影響を与えられるため、特に指定校推薦枠を慎重に設定すること。
No	評価基準	教員・教員組織
6	中期目標	・年齢構成を適正化する。 ・教育研究支援体制を確立する。
	年度目標	・退職教員の後任人事に際しては、適正な採用を行いつつ、年齢構成の改善を図る。 ・人的な研究支援体制の増強の可能性について検討する。
	達成指標	・新規採用時に年齢をも考慮し、高齢者に偏らないような分布としていくこと。 ・検討の中間報告や結果等が教授会等で共有されること。
No	評価基準	学生支援
7	中期目標	・学生に対するサポート体制を充実させる。
	年度目標	・新カリキュラム2年目であり、旧カリキュラムから進級基準が変更となっている学科も多く、特に留級者数について計測・分析する。 【新型コロナウイルス禍の終息状況等にもよるが、状況が許せば以下も目標とする。】 ・状況に応じてラーニングサポーター制度の活用を図る。
	達成指標	・留級率等のデータの共有、可視化がされていること。 ・新型コロナウイルス禍の収束状況に応じた実施検討と実施した場合の効果を把握すること。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
8	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。
	年度目標	・状況に応じて、法政科学技術フォーラムへの出展等に協力する。 ・状況に応じて、理系同窓会と連携したイベントを開き、企業と教員及び学生との連携を図る。
	達成指標	・新型コロナウイルス禍の収束状況に応じた対応とならざるを得ないが、実施となった場合の出展数等を適正にしていること（法政科学技術フォーラム・理系同窓会連携イベントなど）。
<p>【重点目標】 新型コロナウイルス禍の収束状況等にもよるが、2019年度からの新カリキュラムが教育課程・学習成果の観点から適正に運用されていること。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 状況の把握のために、関連するデータ（留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率など）を収集、可視化し学部内で共有することを目指す。</p>		

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

理工学部の2020年度中期目標・年度目標の設定について、カリキュラム改定2年目であることから、「新カリキュラムの適正な運用」が重点目標に設定されていることは妥当である。また、各評価基準の年度目標について2019年度と比べてFD関連データ（留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率など）の充実とその取捨選択を適切におこなうこと、等、具体的な目標が設定されていることが評価できる。2020年度は達成指標に基づき、年度目標を達成することが望まれる。

【大学評価総評】

理工学部では2019年度に大幅なカリキュラム改定がおこなわれ、2020年度はその2年目に当たる。2019年度に引き続き、適切にカリキュラムが運用されているかどうかの確認をおこなっていただきたい。

教育課程・内容については、2019年度からの大幅なカリキュラム改定により、コース制を設けた教育課程の体系化、選

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

択科目の履修モデルを設ける等の対応をし、少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBLを充実させる等、適切な提供がおこなわれている。また、GP および GPA、場合により GPT を算出して成績評価をきめ細かくおこなっていること、卒業研究において成果に不足が見られる場合は再発表を課す等、学生の学習成果の把握、評価は適切におこなわれている。とりわけ 2020 年は、これまで新型コロナ禍により生じた不測の事態に、迅速にインターネット環境を利用して学生目線での対応がおこなわれたことが高く評価される。引き続きの努力を期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。